

巻頭言：図書館総合展と人材育成事業	1
特集：図書館総合展	
「第21回図書館総合展」ブース展示報告	2
フォーラム報告	3
「図書館に新規利用者呼び込む！図書館とWikipediaタウン」	
連載：わたしのイチオシ「専修大学図書館 図書館ボランティア「Compass」」	4

図書館総合展と人材育成事業

企画委員会委員長 (川崎市立中原図書館長) 小島 久和

現在、神奈川県図書館協会には公共図書館77館、大学図書館42館、専門図書館13館の合計132館もの図書館が加盟されています。どの図書館も、それぞれの館種の特徴を生かしながら、人々に本や資料をつなげていく役割を担っておられると思います。

昨今、特に公共図書館では読書離れ、図書館離れが課題となっています。中高生の不読率は毎年高いままで推移し、大学生の半数も読書の習慣がないと聞かことがあります。大学図書館などにおいても、その利用形態は変化しつつあるのではないのでしょうか。

昨年11月の「第21回図書館総合展」において「新書とYAがであう」というフォーラムに参加しました。「新書」を活用した読書推進の方法や取組みなど、編集者や学校関係者、ライターの方々から様々な視点で興味深いお話を伺いました。

読書習慣は一朝一夕に身に付くものではありません。いかに子どもの時から読書に親しみ、本や図書館を利用してきたか、これらは家庭、学校、図書館の役割が大きいです。もともと読書習慣のない方々に読書の良さや大切さを伝えることは難しいものです。これからの高齢社会をより豊かに

するためにも、本や読書にどのように向き合っていくのかを改めて考えさせられました。

図書館総合展だけでなく、神奈川県図書館協会の各委員会、研修は、様々な館種の人々が一同に集まる貴重な機会です。是非これらの機会に公共、大学、専門図書館それぞれの課題を皆さんで共有してください。異なる視点や発想から課題解決につながるヒントも得られるかもしれません。

協会報267号でもお知らせしましたが、神図協創立90周年を記念して今年度「人材育成事業」を開始したところです。対象研修は限られますが、参加する際の参加費等の助成が受けられます。会員の皆さまは是非この事業も活用しながら、積極的に機会を見つけて様々な研修等に参加してください。きっとこれからの図書館の発展や自分の仕事、人生に役立つものが見つかると思います。

特集：図書館総合展

「第21回図書館総合展」ブース展示報告（11月12日～14日実施）

広報委員会では、11月12日から14日までパシフィコ横浜で開催された「第21回図書館総合展」において、神奈川県図書館協会の展示ブースを開設しました。

展示内容は、前回に引き続き、パネルや協会刊行物を展示し、加盟館の紹介映像をプロジェクターで流しました。併せて、神奈川県資料室研究会のフォーラムの案内や、加盟館から提供いただいたチラシ等を掲示し、来場者に情報提供しました。近年の文豪ブームと相まって、総合展期間中に神奈川県近代文学館で開催されていた「中島敦展—魅せられた旅人の短い生涯」のチラシに注目が集まっていました。

アンケートにお答えいただいた方には、ノベルティをお渡ししました。今回は、新たに神奈川県図書館協会のロゴを使用したオリジナルの付箋を作成しました。また、付箋が本を傷めることは、一般的にはあまり知られていないという意見から、「図書館の本には貼らないで下さい」の文言を啓発のために記載しました。ノベルティを受け取った方の中には、この一文に気づいた方もいました。



来場者からは、ブースに展示していたレシートロールの芯を再利用したブックスタンドに関する質問が多数あり、アンケートの自由記述欄でも複数感想をいただきました。学校図書館関係の方々によると、材料であるレシートロールの芯の入手が難しいそうで、代替できるものはないかというお問い合わせがありました。その他、神奈川県図書館協会の仕組みについてのお問い合わせや、県内の図書館のサービス状況へのご意見などもいただきました。

ブースには図書館について勉強をしている学生や、司書職採用枠を受験している若い方が訪れることもあり、質問にお答えしました。現在も図書館について、興味・関心を持つ若い人たちがいることを改めて実感し、個人的に大変嬉しく思いました。

アンケートによると、県外から来られた方が半数で、神奈川県図書館協会の活動について知っていただく良い機会になったのではないかと思います。自由記述欄には神奈川県図書館協会にとどまらず、神奈川県内の図書館に向けた様々なご意見や感想をいただきました。これらを参考に今後の事業や来年度の広報活動に活かしていきたいと思っております。

(横浜中央図書館 井上 美穂)



「第21回図書館総合展」フォーラム報告

「図書館に新規利用者呼び込む！ 図書館とWikipediaタウン」

(11月14日実施)

昨年11月14日、パシフィコ横浜アネックスホールにて図書館総合展フォーラムを開催した。今回は3名の講師をお招きし、「Wikipedia と図書館の親和性」、Wikipedia を編集するイベント「Wikipediaタウン」についてお話をいただいた。

最初に登壇したウィキペディアンの海獺(らっこ)氏には、Wikipediaの基礎知識とともに、イベントの事例やオーソドックスな進め方をご紹介いただいた。まずはWikipediaに関する簡単なガイダンスを行い、次いで街歩き・撮影、その後、図書館等での資料探しを経て、編集・執筆作業をし、成果発表するのが一般的だという。

Wikipedia記事の編集では、広く知られていることを中立的な観点で資料に基づいて書くことが重視されていて、文献資料が不可欠であることから図書館との親和性が高いと言える。イベントで資料を用いて調査し、記事の編集を進める中で、図書館本来の役割が参加者に浸透するという効果もあるそうだ。

県立長野図書館企画協力課主査の小澤多美子氏からは、「WikipediaLIB@信州」の開催経緯・概要をもとに、なぜ図書館がWikipediaイベントを行うのかという視点で事例報告があった。

県立長野図書館では地域の一人一人が主体的に情報を探し、判断し、編集し、発信する力を身に付

けていけるようにサポートをしていくことがこれからの図書館の大切な役割であるという目的の実現のために、そうした要素をまんべんなく体験できるプログラムとしてWikipediaタウンはとても適していると考え、県立図書館として市町村図書館が開催できるように支援していく手段にと、県内の図書館員向けに企画したものである。同館ではその後も、「信州酒ペディア in 上諏訪」など県内でのイベントの開催支援・共催をしているようだ。

最後に神奈川県立図書館資料部図書課長の小松晶子氏より、一般県民を対象にこれまでに3回実施したWikipediaイベントの事例報告があった。従来の県立図書館イベントの参加者層とは異なり各年代が平均して参加しており、会場は熱気に満ちていたという。事前に職員研修を行い、実施にあたっての課題を整理したことが効果的だったそうだ。

フォーラムには172名もの参加があり、質疑応答も活発に行われた。図書館にマッチした新しい形のイベントとして、今後の広がり期待したい。

(横浜市中心図書館 土岐 千尋)



専修大学図書館では、学生の図書館利用促進のために、図書館ボランティア団体「Compass」が活動をしています。現在所属している学生は1～4年生合わせて35人。学部も文学部、経済学部、経営学部などとさまざまです。

「Compass」という団体名は、「専修大学の図書館を利用する人たちにとっての羅針盤になりたい」という思いから名付けられました。Compassのロゴも学生がデザインしました。



普段、Compassは3つの班に分かれて活動をしています。

① 展示班

学生におススメしたい本を展示しています。現在、Compassのメンバーは月に一度ビブリオバトルを開催しており、そこでチャンプ本となった本に紹介文を添えて展示しています。その他にも、図書館に届いた新着本にPOPをつけ、展示しています。



② 業務サポート班

業務サポート班は「Compass サポートデスク」を開設し、図書館の利用についてのクイックレファレンス対応をしています。業務サポート班には司書課程の授業を受講しているメンバーが多くいるため、この活動を通して、利用者サービスについて学んだことを実践することができています。そのほかにも、書架点検を行う中で利用者への案内も対応しています。

③ 館内整備班

館内整備班は、図書館利用のマナーアップ向上を目指し活動しています。2018年10月から特製の消しカス入れを館内に設置し、使い込まれた消しカス入れのメンテナンスをしながら、随時50個程を提供しています。利用率はとて高く、「いい活動だね」と利用者から声をかけていただくこともあります。消しカス入れにはイラストなど楽しい仕掛けをデザインに取り入れており、地道な活動に工夫を凝らしながら館内の美化に努めています。



Compass
サポートデスク



消しカス入れ
利用啓発ポスター

この他にも、Compassの学生たちは、図書館をより過ごしやすい場所にしようと活動を行っています。専修大学図書館に来館された際には、ぜひ彼らの活動に注目してみてください。

(専修大学図書館図書課 小川 桃香)